

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年4月28日

BMJ:

Editorial : 社会運動を行う医師

【松崎雑感】

戦争反対、人種差別反対の運動をやったかどで、医師免許はく奪されるの
ですか、と言うイギリスの現状に、BMJが論説を出しています。

禁煙運動、核兵器反対運動をやっている私は、イギリスでは、医師資格はく
奪なのではないでしょうか？

Editorial : 社会運動を行う医師

Launer J. John Launer: **Doctors as activists**. **BMJ**. 2024;385:q939.
Published 2024 Apr 24. doi:10.1136/bmj.q939

社会運動を行う医師がニュースになっています。「Just Stop Oil」の活動に参加して平和的な抗議活動を行っていたバーミンガムの元General Practitioner、サラ・ベン氏は、逮捕されて5ヶ月間医療免許がはく奪された。

「Extinction Rebellion movement」に参加して平和的方法で気候危機の問題を訴えてきた複数の医師メンバーは逮捕され収監されている。彼らは今、医師免許のはく奪を判定する懲戒公聴会にかけられている。

医師として社会運動にかかわるのはどうなのかは、古くて新しい問題である。著名な医師の中には、社会活動を優先させることで医師としてのキャリアや評判を危険にさらした人もいる。

偶然にも、私が読み終えたばかりの2冊の本は、そのような医師の話を書いており、それらは私たち全員に示唆を示している。

チェーホフの『サハリンの旅』(ジョナサン・コール著)は、ロシアの偉大な劇作家であり医師でもあるチェーホフが、19世紀にシベリア東海岸沖のサハリン島（樺太）に設立された恐ろしい流刑地を調査する旅を描いた作品である。

神経生理学の教授であるコールは、チェーホフの作品に基づいて演劇作品を制作した俳優と共同で、サハリンを2回(1回は北極圏に近い冬に)訪れ、このエピソードに魅了されたことは明らかだ。

コールは、チェーホフは自分の戯曲や短編小説が数年以内に忘れ去られることを期待していたが（松崎注：チェーホフは、当時のロシアの人々の苦難が昔ばなしとなる時代がもうすぐ来る、そうなれば、私の作品の社会的意義は不要となるという想いで創作活動を続けており、この期待があったようだ。事実、彼の死から10数年後にロシア革命が起きた。ただし、歴史は行きつ戻りつである）、彼が持ちこたえることを望んでいたのは、ロシア帝国に何百万人も住んでいた農民、亡命者、囚人の多くを改善するために彼が行った仕事だったと書いている。

チェーホフのサハリンに関する記述は、不潔、墮落、犯罪、腐敗、病気、児童買春、その他多くの悲惨な状況を伝えており、イギリスが植民地としていたオーストラリアの囚人入植地の現実と一致している。ともあれコールが書いているように、「チェーホフがこれらの作品を残した事がすべての人にとって大きな遺産となった」。

2冊目の本は、より身近な題材によって、医師による人道的活動の意義を記したものです。リチャード・ストーンは、ロンドンのノッティングヒルの著名なGeneral Practitionerで、人種差別問題の活動家であり、私の友人だった。

1990年代にはロンドンの警察活動に関する公開審査委員も務めた。

この公開審査は、白人ファシストのギャングに殺害された黒人のティーンエイジャー、スティーブン・ローレンスの殺害事件を調査するために行われた。この審査結果は、警察組織による構造的な人種差別の告発につながった。

人種的正義のためのリチャードの戦いは彼の唯一のキャンペーンではなかった。彼は1986年に行われた保守党勝利のためのゲリマンダリング（選挙区変更）を告発した。

これは、ウェストミンスター・ロンドン自治区で行った「投票のための家」スキャンダルとして有名である。選挙区変更を行った自治体の指導者は1200万ポンドの賠償を余儀なくされた。

リチャードが最近亡くなったことで、私は彼がローレンス事件の調査に関する経緯について書いた本を読む気になった。

彼は、舞台裏での活動は沈黙のうちにベールに包まれるべきであるという慣習を打破しなければならないというメッセージを発信している。彼は著書の中で、欺瞞、腐敗、巧妙な人種差別が、過去のスティーブン・ローレンス殺害事件の捜査だけでなく、警察や政府の行動でも、今も続いているようだ。

多くの医師は、私と同じく、これらの人々や現在general physician資格の審査委員会（GMC）の審査に直面している医師のように行動をする「勇気」はありません。

しかし、そのような大義のために個人的および職業的なリスクを冒す彼らの勇気に畏敬の念を抱いています（機械翻訳なのに、such causesを「大義」と訳したのは秀逸です：松崎）。

